

身代山龍光院由来記 写 (加藤家文書)

身代山龍光院由来記

身代大明神祭神素戔鳴尊武州足立郡氷川大明神則是身代大明神なり其時尊出雲国大蛇を折脊し其国を治心清々と思含則号其地清村と故に後に当国に跡垂なふて是氷河大明神なり又牛頭天王是なり此里ひらきて須賀村と名付し出雲国清の里縁なり依而須賀村の惣鎮守身代大明神ニ鎮座し須賀村の人万歳奉祝尊大蛇を切窮其国をおさめしより蛇太古禮龍登交し其縁にて龍光院造立し別当の職とす其龍光此さとに輝惡魔外道を降伏祈念し故に須賀村惣鎮守明神の祈念之札守且家其外村中不殘大小百姓配札の例此故なりと此さとの長人書記写ものなりと言尔

右由来書之義此度

王政

御一新二付明治三辛午年五月吉旦古来之書類御尋二付書写置候もの也

是ハ額面なり

身代大明神

若草乃罪代万世仁

五十川ノ身代神

延宝九稔

辛酉二月十五日

覚

写

一米式斗者

右者身代大明神江年々令寄附之間歳々名主方より可被請取者也

元文四年

未正月㊦如此印たり

別当

龍光院印

但シ由書本書ハ不殘  
悉皆他ニ仕舞置候也

夫我家ハ大昔し高野島にありたると有先人の御話し旧相島將監といふ士ひ北葛飾郡茨島を開発し夫が為め將監茨島と今ニ於テモ字を号し其役我ら家の地先祖と見たり唯新の際ニ我ら且中十七軒鷲宮の近所水深村ニあり其中ニ相島家四軒あり然ル処区務所被設候ニ付区沢ニて且中を他の人に譲り然レ共今先祖と申ハ下野田村吉野坊といふ人より継統致し居ル事と考ひます何レにしても旧本山修験にて

聖護院御宮御末にして代々継統致せとも

王政御一新の折柄慶應四辰年九月鎮將府御伝達所ニ於テ復飾をス即チ加藤有馬ト改名神職トなり旧我家の裏臺地の際ニ権現台と申て高き処あり是ニケヤキの大木ありしが唯新の折柄行田の士族へ御下ケニ相成伐採致せ共右之ケヤキの木江昔し東照宮様御馬をつなぎたる故此木の為めに畑六畝分御除地有之其際私家へ御小休被遊たとの事ニて私家江ハ別段御除地三反歩被下置候との言伝へ也旧此裏ハ鎌倉より奥州の街道ニて高野島ニ旧利根川の時橋があり当地者他トハ違ヒ由われありて村社と別当と両様ニ御除地を置れ唯新の際御改め之節本縣ニ於テハ別当と村社と別て御除地置れたる処ハ無双の事ニして東照宮様御小休の為め除地多く有之候也

但シ右権現台の義地所ケヤキ共行田の士族江御下ケニ相成猶又当上株渡辺惣七様  
右士族より買求メ台をくずし平地ニ致し候也

神主加藤有馬次ニ同福泰継統ス

古人伝へこのしろといふ魚を焼と人のかほりするといふてこのしろをやゑて瀧蚤姫を助ケタルトいふる哥に

武蔵野の百間の里にたつけむり

たが身代にしびやたくらんとあり

但百間姫宮へ落つ立といふ事